

事業所名

なりほdeれみそらし

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2024年

10月

1日

| | | | | | | | | |
|-----------|--|---|--|-----|------|---------|----|----|
| 法人（事業所）理念 | どの音から始めてもどう弾いてもいい、出した音すべてが正解。その子その子の奏でる旋律を大切にして、地域で共に育ち、共生する豊かな社会実現を目指します。 | | | | | | | |
| 支援方針 | ・一人ひとりのお子様の特性を見つめ、成長の課題を見極めて、健全な発達を支えています。療育の環境を整え、子どもたちの自信と意欲をもって課題に取り組めるように働きかけをします。 | | | | | | | |
| 営業時間 | 9時 | 0分 | から | 18時 | 0分まで | 送迎実施の有無 | あり | なし |
| 支 援 内 容 | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | (1)健康状態の維持・改善(2)生活習慣や生活リズムの形成(3)基本的な生活スキルの獲得(4)生活におけるマネジメントスキルの育成（詳細は、別紙「5領域」の通り） | | | | | | |
| | 運動・感覚 | (1)姿勢と運動・動作の基本的技能の向上(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用(3)身体の移動能力の向上(4)保有する感覚の活用(5)感覚の特性への対応（詳細は、別紙「5領域」の通り） | | | | | | |
| | 認知・行動 | (1)認知の特性についての理解と対応(2)対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得(3)行動障害への予防及び対応等（詳細は、別紙「5領域」の通り） | | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | (1)コミュニケーションの基礎的能力の向上(2)言語の受容と表出(3)コミュニケーション手段の選択と活用(4)状況に応じたコミュニケーション（詳細は、別紙「5領域」の通り） | | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | (1)情緒の安定(2)他者との関わり(人間関係)の形成(3)遊びを通じた社会性の発達(4)自己の理解と行動の調整(5)仲間づくりと集団への参加（詳細は、別紙「5領域」の通り） | | | | | | |
| 家族支援 | 支える環境を整え、成長や発達の基盤となる親子関係や家庭生活を安定・充実させ、ご家族さまが育児に前向きになれるようよう支援します。アタッチメント（愛着）の安定、家族、きょうだいからの相談に対する適切な助言、障害の特性に配慮した家庭環境の整備を行い、ご本人と家族をトータルに支援していきます。 | 移行支援 | 移行という視点を持ち、可能な限り地域において放課後等に行われている多様な学習・体験・活動や居場所を享受し、学童保育等との連携、同年代の児童をはじめとした地域における仲間づくりやライフステージの切替えを見据え将来的な移行に向けた丁寧な関わりを図り、全てのこどもが共に成長できるよう支援していく。 | | | | | |
| 地域支援・地域連携 | 保育施設・医療機関・市区町村・児童相談所・保健所などの関係機関と連携を取り、地域の子育て環境を整えていきます。ライフステージに応じた切れ目のない支援と関係者間のスムーズな連携を取ることでお子さまが社会で安心して生活できるように支援していきます。 | 職員の質の向上 | 年間計画に基づき、各種研修・訓練・会議に、多様な職員が参加できるように計画しています。職員の専門性の向上をめざすため、内部外部問わず積極的に研修や講演等に参加し、質の向上を測ります。多種多様な研修やメソッド学習で経験年数が浅い職員の能力向上を測っています。 | | | | | |
| 主な行事等 | ・夏季社会科見学(遠足)・工作イベント(スライム作り、ブラッシュアートなど)・おやつづくり・SSTイベント(ご近所街探検など) | | | | | | | |

支援において、複数組み合わせで行うことが求められる4つの基本活動を提供するに当たっては、ご本人の意見を聴きながら自己選択や自己決定を促すとともに、こども同士の関わりの中でご本人が主体性を発揮しながら参加できるよう、支援していきます。

| | | |
|---------|--------------------|---|
| 4つの基本活動 | 日常生活の充実と自立支援のための活動 | 発達に応じて必要となる日常生活における基本的な動作や自立を支援するための活動を行う。ご本人が意欲的に関われるような遊びを通して、成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育めるようにする。将来の自立や地域生活を見据えた活動を行う場合には、ご本人が通う学校で行われている教育活動を踏まえ、その方針や役割分担等を共有できるよう、学校と連携を図りながら支援を行う。 |
| | 多様な遊びや体験活動 | 遊び自体の中に発達を促す重要な要素が含まれていることから、挑戦や失敗を含め、屋内外を問わず、自由な遊びを行う。また、体験したことや、興味を持ったことに取り組めることは、新たにやってみたいと感じる機会につながることから、多様な体験の機会を提供していく。ご本人が望む遊びや体験、余暇等を自分で選択しながら取り組むことができるよう、多彩な活動プログラムを用意する。その際には、個別性に配慮された環境やリラックスできる環境の中で行うことができるよう工夫することが重要である。 |
| | 地域交流の活動 | 障害があるがゆえにご本人の社会生活や経験の範囲が制限されてしまわないように、地域の中に居場所をつくりながら社会経験の幅を広げていく。学童保育や他の社会福祉事業や地域において放課後等に行われている多様な学習・体験・交流活動など地域資源も活かして、遊びや体験の機会を創出していくとともに、積極的に地域との交流を図っていく。こうした取組は、こどもにとって、地域そのものが安全・安心な居場所となることにもつながる。 |
| | こどもが主体的に参画できる活動 | ご本人とともに活動を企画したり過ごし方のルールをつくったりするなど、主体的に参画できる機会を設け、意見を表明しやすい環境づくりを行いながら、ご本人とともに活動を組み立てていく取組を行っていく。その際には、ご本人の意思を受け止めつつ、一人一人の個別性に配慮するとともに、寄り添いながら進めていくことが重要である。こうした取組は、こどもにとって自分自身が権利の主体であることを実感するとともに、こどもの権利を守ることにもつながる。 |

視覚障害、聴覚障害、知的障害、発達障害、精神的な強い不安等、場面緘黙（選択性かん黙）、肢体不自由、病弱・身体障害特性等に応じた配慮事項 虚弱、複数の種類の障害、強度行動障害、高次脳機能障害など、それぞれの障害特性や状態等に応じて必要な配慮を行う。また、思春期のこどもや不登校状態にあるこどもに対しても必要な配慮を行う。

生活や遊び等の中で、5領域の視点を網羅しお子さま個々に応じたオーダーメイドの支援を行います

言語・コミュニケーション

聞く、模倣する、報告する、要求する、観察することなど、自分と周りの人たちも大切にしたいコミュニケーションを学びます。コミュニケーション能力を高めていくことで、学校生活や大人になってからの社会生活を円滑に送れる基盤をつくることができます。自分の思いを伝えられるように発語の支援をしていくとともに、相手の話す言葉・思いを理解できるように支援していきます。暴言や暴力などの周りからは不適切で迷惑と思われる行動も、お子様にとっては、意味があり何らかの問題に対処している行動と捉え、その問題を適切な行動で対処できるよう支援していきます。

感覚・運動

姿勢の保持や運動能力の向上をサポートします。筋肉をつけることやバランス感覚、空間認知力などの感覚を育むために、運動や作業を通して楽しく適切な刺激します。緊張・弛緩など身体をコントロールする練習をします。体の感覚や様々な感触に触れ、感覚を成長させます。身体の動きをコントロールできると、気持ちやテンションのコントロールに役立ちます。ミュージックケアなど、発達に合わせて楽しく学んでいき

健康・生活

基本的な生活スキル（食事、着替え、トイレでの排泄、身の回りの清潔など）を身につけるために、出来ないところや苦手なことをお子さまひとりひとりに合わせて援助をします。年齢が上がるにつれ、身体の変化や心に起きる葛藤も複雑になってきます。プライドや不安な気持ちに混乱して行動が移せなくなる場合があります。☆気持ちに名前をつける☆強さに段階をつける☆絵に書いてみるなど、感情を客観視しコントロールできるよう支援

認知・行動

視覚や聴覚、触覚などの感覚を利用して必要な情報を得られるように認知機能の向上を目指します。目の前にある情報を得るだけでなく、情報を生かして次にどのように行動したらよいのかを自分で考える必要があります。情報を適切に処理したり、コミュニケーションの難しさから生じる行動の対処方法を学びます。また、着席する、話を聞く、相手をよく見る、嫌なことも頑張ってみるなど、課題に取り組む学習の姿勢を支援します。がんばってできた、できるを増やし、意欲が感じられるように支援内容を工夫して取り組みます。こだわりが強く出やすい・偏食があるなど、生活を送るうえで問題となる行動がみられる場合は認知機能の向上を手助けし、行動障害の予防をしていきます。

こどもの育ち全体に必要な支援を組み立てていきます

自立するまでに身につけたいスキルは何ですか？

人間関係・社会性

ソーシャルスキル(SST)の習得を目指します。他者とのかかわり・グループ活動を通して、楽しいな、良かったななどの成功体験ができるような環境設定を考え支援していきます。生活していく上で、集団生活の中に入ることとは不可欠です。集団の中で、挨拶、ルール、マナー、礼儀、感謝、謝罪などの社会生活を円滑に送るためのスキルを身につけていきます。集団にある人間関係(協力・対立・利害・友だち・上下など)の中で、相手も自分も大切にしたい行動を選択できるように支援します。ストレスが強い状態の時には、お子様のペースに合わせてストレスを発散できるよう支援します。